

民有林の利用間伐実施に向けた取組

～積丹地域共同施業団地で効率的な施業の実施を目指す～

石狩森林管理署

【現状】

積丹地域共同施業団地では、平成20年度から効率的な施業の実施に取り組んでおり、これまでの10年間で間伐等森林整備を162ha実施してきている。平成30年度からの協定更新に伴う事業計画の見直しに当たっては、効率的な利用間伐の推進などにより収入増につなげるため、適切な実行管理に取り組むこととした。

【目的】

共同施業団地内で、国有林・民有林の一体的森林整備による効率的な施業を実施し、収益の増加を目指す。

平成29年度までの取組と成果

協定締結により民国連携した18, 610mの路網整備を行ったことにより、これまで実施できなかった間伐などの森林整備を行うことができた。

また、この路網や共同土場を活用することで木材の運搬距離を短縮し、輸送コストを削減することができた。

【平成30年度の取組結果】

1. 森林資源調査を実施

三者（積丹町・整備センター札幌水源林事務所・石狩署）と後志総合振興局林務課・森林室の連携で、町有林の利用間伐（列状・帯状）を推進するため、ドローンの活用等による森林の現況把握を行い、具体的な検討を進めた。

2. 共同土場の選定・調整

共同土場については、積丹町の町有地を選定。共同土場を活用した共同出荷の検討を行った。

3. 林業専用道等の路網作設箇所の検討

国有林の作業道を修繕することにより路網整備を進めた。また、森林整備センター札幌水源林事務所と積丹町が国有林路網の終点を起点とする路網整備の計画を行った。

冬期：1月25日運営会議実施

1. 今年度の成果であるドローンによる森林の現況把握や調査結果について報告し、情報共有を行った。
2. 伐採箇所の確定、伐採時期の調整、売払方法等の検討を行った。
3. 次年度の事業予定の提案を行った。

森林調査の様子



意見交換の様子



運営会議の様子



【今後の取り組みで目指すところ】

今年度の取組結果を踏まえて、

- ・路網整備の実行
- ・間伐事業量の確定
- ・利用間伐の推進
- ・共同出荷の事業確定
- ・共同土場の整備
- ・現地検討会による意見交換

効率的な施業の実施に向けて取り組む

【今後の目標】

国有林・民有林の伐採箇所を一体的施業としてとらえ、事業ロットの拡大による作業コストの縮減、効率的な施業を行うとともに木材の協調出荷による有利販売の効果で利用間伐を拡大する。